

令和2年11月7日

調布市立神代中学校学校便り



『むらさき』

11月号

調布市立神代中学校長：高橋 剛三

<http://www.chofu-schools.jp/jindaichu>

『ふれあい月間』の取り組みを通して

副校長 山田 勝

例年ですと、6月と11月に東京都が進める「ふれあい月間」が設定され、都内全公立学校で取り組みを進めているところです。いじめの防止・自殺の予防・犯罪非行の防止や不登校の対策に関わる取組状況を把握し、課題・解決策を検討して、組織的な取り組みを推進していくためです。

このうち、いじめの防止については、この取り組みを通して生徒一人一人に、いじめをしない・させない社会的資質の涵養と、行動できる力を育てることを目標にしています。

その方針を受け、調布市ではこのふれあい月間の始まりに2回の「あいさつ運動」を設定し、全市立学校を挙げて「ふれあい月間」の取り組みのきっかけとしていました。

しかしながら今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みのため、学校が再開されたのが6月、分散登校からでした。そのため、6月の「ふれあい月間」「あいさつ運動」は本校を含め全市立学校で実施できませんでした。

また、一斉登校が6月15日に始まってからも感染のリスクを発生しかねない教育活動への配慮、全員前を向いての喫食、部活動等異学級生徒との接触への配慮など、さまざまな制限がかかった中での活動です。体育祭、職場体験、鑑賞教室、修学旅行、合唱祭などの行事も、できることの可能性を探りながら、実施を検討しましたが中止せざるを得ませんでした。

調布市より各施設への入場できる人数の上限が示され、第1体育館も300人以内とされているため、全校生徒は入れず、始業式や全校朝礼も放送やZoomを活用して実施しています。学年集会では体育館に入ることもありましたが、初めて全校生徒が一堂に会したのは、避難訓練で校庭に避難した時でした。その時も校庭を広く使い間隔を大きく取りました。

そのような制限の多い学校生活の中で、生徒会本部と生活委員会からなにか「あいさつ運動」で取り組むことはできないかと考え、今できる取り組みを提案してくれました。

声かけをしてくれる生徒たちもマスクをし、互いに距離をとってあいさつしました。大きな声を出せない分、メッセージボードを用意してくれました。

昨年まで当たり前のようにあった「あいさつ運動」期間の正門と北門での取り組みが、形を変えながら戻ってきました。大きな声であいさつをかわせない分、登校してくる一人一人としっかり目を見てあいさつができたと感じました。今回の5日間の取り組みを通して、神代中生は前を向いて進み始めています。

◇ 今月の予定

日	曜	予 定
1	日	ふれあい月間始
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	土曜授業日
8	日	
9	月	Ⅱ期時間割始
10	火	期末考査
11	水	期末考査
12	木	
13	金	復習確認テスト②③
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	専門委員会
20	金	スポーツ大会②
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	スポーツ大会①
28	土	
29	日	
30	月	ふれあい月間終

本校では、SDGs(世界を変えるための 17 の目標)達成に向けたESD(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)の視点を取り入れた授業実践を通し、持続可能な社会の担い手となる「自ら学び考える」生徒の育成に取り組んでいます。

新型コロナウイルスに「当たり前の日常」が奪われた状況下でも、生徒たちは気持ちを切り替え、今やるべきことにしっかり向き合い取り組んでいます。2万人を超える卒業生が築き受け継いできた、「当たり前のことを当たり前に行う」という伝統が日常として生きることと感じます。

伝統を受け継ぎ未来に引き継いでいく持続可能な「新しい当たり前」を作り出すべく、動き始めました。